

[009] 社会開発学をめぐって表紙奥付等

徳見, 道夫
九州大学大学院言語文化研究院

<https://hdl.handle.net/2324/1654313>

出版情報 : 言語文化叢書. 9, 2004-02-20. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン :
権利関係 :

序 文

九州大学大学院
言語文化研究院長
森 茂太郎

21世紀の国際社会を展望するとき、国家主体、経済発展中心、先進国中心の近代型開発がすでに破綻していることは明らかである。国際協力においても、国家を主体としたマクロな経済開発援助に代って、環境、教育、保健医療、コミュニティ開発といった様々な分野で、地域共同体や非政府組織と協力して対象地域に直接支援を行うことにより、人間の最低限の生活と安全を確保し、社会の質を改善する社会開発援助が求められている。すなわち、経済開発から社会開発、住民参加型の人間開発への転換である。

九州大学大学院言語文化研究院が、『言文叢書』の一冊として『社会開発学をめぐって』を構想したのは、「国際社会開発学」という新たな学問の創出こそが、われわれの使命であると自覚するからにほかならない。21世紀における「文化的共生」という理念の下、言語文化研究院が擁する豊富な知の蓄積を、地域や国際社会へ実践的に還元すると同時に、そこから新たな刺激を受けて研究の統合と活性化を図る本書の刊行は、まさに言語文化研究院にして初めて可能な学問的挑戦である。この論文集を一読して、読者はあるいは雑駁な印象を持たれるかも知れない。「国際社会開発学」について、茫漠としてとりとめのないイメージを抱かれるかも知れない。ここに集結した様々な分野における第一線の研究者たちにしても、それは同じことであろう。なぜなら、「国際社会開発学」という学問があらかじめ存在するわけではなく、まさしくそれは来るべき学問、すなわち、各々専門分野を異にする研究者たち相互の連携と協力によって初めて可能になる、新しい学問的宇宙だからである。宇宙が混沌から、コスモスがカオスから生まれるのは当然ではないか。